

第2部 パネルディスカッション 「住民主体の支え合い活動とその手法を学ぶ」

◇コーディネーター

沖縄国際大学 総合文化学部人間福祉学科 教授 神里 博武 氏

◇パネラー

○「小地域福祉ネットワークにおけるゆいまーる会の取り組み」(レポート集 34 ページ)

南風原町兼城ゆいまーる会 松田直子 氏

○「比屋根団地における勉強会、昼食サービスの取り組み」(レポート集 31 ページ)

比屋根団地子ども育成会 北本律子 氏

○「一人暮らし高齢者マップと見守り体制づくりの取り組み」(レポート集 21 ページ)

沖縄市城前自治会 内間満 氏

○「地域の高齢者が集う憩いの家 かまどぅハウスの取り組み」(レポート集 11 ページ)

ボランティアグループもみじ会 安富祖愛子 氏



第2部のパネルディスカッションでは、まずはじめに4名のパネラーによる活動実践発表が行われた。(発表内容は、本レポート集に収録している各団体の紹介記事を参考のこと)

その後、コーディネーターの進行によってパネル討議が行われ、それぞれの活動についてさらに詳しい意見交換を行った。

続いて、フロアにいる来場者から質問を受け付け、議論を深めていった。

パネルディスカッションでの討議の様子をQ & A方式で次ページにて紹介する。

○コーディネーターからの質疑応答○

- Q．神里氏：南風原町のゆいまーる会では、保育所と連携して子育てサロンを実施しているとのことですが、どのような連携を行っていますか？また、活動を行っていく中で課題がありましたら、教えてください。
- A．松田氏：月1回、地域の保育所から保育士が参加して、サポートしてくださり、とても助かっています。課題はボランティアの育成が挙げられます。これからは青年会や地域の方に呼びかけてボランティアを確保していきたいです。
- Q．神里氏：比屋根団地子ども育成会と自治会との関わりはどのようになっているのでしょうか？
- A．北本氏：子どもたちはエイサーの練習をして夏祭りで披露したり、地域のごみ拾いを月1回行ったりして自治会へも協力しています。
- Q．神里氏：高齢者の孤独死が問題になっていますが、比屋根団地では子どもたちの支援以外に高齢者への支援はどのようにされていますか？
- A．北本氏：団地で倒れた一人暮らし高齢者を窓を割って助けた経験があります。このときは緊急通報システムが役立ちました。だけど、一人ではどうしようもできませんでした。この時、住民が看護師をしている人を2人呼んでくださり、入院への準備がスムーズにいきました。この時、「やはり地域のかってすごいな」と実感しました。私がお願いしなくても皆が考えて動いてくれました。
- Q．神里氏：城前自治会の福祉連絡協議会の役割について教えてください。
- A．内間氏：福祉連絡協議会は月1回開催し、各班ごとの状況を報告してもらい、対応が必要なものがあれば、自治会長と民生委員が出向いて行って対応しています。福祉連絡協議会からの情報入手のほかにも、住民から直接自治会長の携帯電話に連絡が入ったりもします。今では、「開かれた自治会」として機能しはじめています。
- Q．神里氏：もみじ会ではアットホームなサロンを作られているが、恩納村では行政が行っているミニデイはありますか？また、行政や社協からどのような支援がありますか？
- A．安富祖氏：恩納村には行政が行っている素晴らしいミニデイもありますが、私たちは独自で活動を行っています。村や社協は支援をお願いすると答えてくれます。行政職員も毎週訪問してくださいますし、地域の駐在の方も訪問され、私たちのやりがいにつながっています。

○フロアからの質疑応答○

Q. 浦添市ではアパートが増え、アパート住民への支援や状況把握が難しいが、城前自治会ではどのような工夫をされていますか？また、社協とどのように関わっていますか？（市社協職員より）

A. 内間氏：城前町ではアパートは非常に少なく、一戸建てが多い地域性がありますが、ゼンリンの住宅地図をもとに一軒一軒、足で調べていくという手法をとっています。社協とは職員に福祉連絡協議会に参加してもらい情報交換を行っています。また、在宅介護支援センターの職員も参加くださり、自治会が把握しにくい自治会員以外の方の情報交換も行っています。

Q. これから子育てサロンを始めようと準備をしているところです。南風原町兼城ゆいまーる会へ子育てサロンの立ち上げるまでの人集めなどの取り組みについて教えてください。（市民生委員より）

A. 松田氏：南風原町では平成13年に0～3歳児を抱える全世帯（1,256世帯）対象に調査を行い、専門家の方に分析などを行っていただきました。そして、平成15年に山川地区、照屋地区に次いで3番目に兼城にサロンが立ち上がりました。今では町内7ヶ所で開催されています。5年目を迎える兼城では、サロンの運営を母親たちを中心としたサークルに切り替え、今月からスタートしています。

Q. 城前自治会では自治会の敬老会など高齢者を招いたりして、工夫されていますが、こうした高齢者の方々の自治会への加入はどのようになっていますか？（市民生委員より）

A. 内間氏：自治会主催の敬老会ということで自治会員を対象に開催しました。80歳以上の78名を招待し、30名の参加がありました。（公民館のホールが2階にあり、足の悪い方の参加が難しかったため。）参加できなかった残りの招待者には翌日にプレゼントを配りに自宅を訪問しました。自治会に加入していない方が25名いらっしゃいますが、こうした世帯には市の広報と合わせて自治会だよりを届けて、自治会の情報を提供しています。

Q. これからは住民主体の活動が必要となってくるということは理解できましたが、理解できても最初の一步を踏み出せない方も多いと思います。発表者の皆さんがキーパーソンとなり得たきっかけについて教えてください。(村健康福祉課職員より)

A. 北本氏：「地域全体で子どもを育てたい」と思ったのがきっかけです。集会所で働いていく中でいろんな人と出会い、いろんな悩みを聞いてきました。こうした悩みに対して行動を起こそうと思ったときにみんなが「やろうよ」と賛同してくれたので、活動の立ち上げができました。

A. 松田氏：「閉じこもりになりがちの高齢者を社会参加させよう」ということで、町社協の助言・支援を得ながら、平成5年に兼城ゆいまーる会を立ち上げました。結成から15年たち、今では元々いる方より新たに入ってきた方が倍くらいいます。自治会の班や社協、老人クラブを通じて新しい会員とも親睦を深めながら、輪を広げながら活動しています。

A. 安富祖氏：もみじ会のメンバーは皆、「何かやろう」と誰かが言えば「じゃあ、やろう」とみんなが団結する身軽なグループです。自主的に立ち上げた活動に行政も協力してくれたので、立ち上げの苦労はありませんでした。また、お年寄りと関わっている中で、私たちもパワーをもらいますし、みんな「しーぶさー」(やりたがり)ですね。「お金はなくてもどうにかなる」と感じています。恩納村に1ヶ所だけなので、各校区にもできればいいなと感じます。また、恩納村以外の市町村でもかまどうハウスのようなところが出来ればいいなと感じます。利用者の方も喜んでもらえるので、ぜひ一度、かまどうハウスへ見学に来てください。

A. 内間氏：「はじめの一步」を踏み出す前に二歩・三歩を考えておかないと、すぐに止まってしまうと思います。私の見守りには三段階ありまして、第一段階は「お年寄りのお宅に上がって、電話のそばにチラシを貼ること」、第二段階は「冷蔵庫を開けること」、そして第三段階は「ご飯に招待してもらえること」です。「福祉というのは中途半端じゃいけない」と思います。「大きなお節介」をすることが大切だと思います。はじめの一步だけではなく、「次は、その次は」と計画性をもたすことで、はじめの一步が踏み出しやすくなるんじゃないかと思います。

Q. 比屋根団地の学習会はほぼ毎日開催しているとのことですが、ボランティアの皆さんの息切れというのはないのでしょうか？(村民生委員より)

A. 北本氏：学習会は日曜祝祭日をのぞく毎日実施していますが、ボランティアの息切れはないです。集会所はいつも人でいっぱいしており、その皆がボランティアなんです。集会所依存症かというくらい、集会所に行かないと寂しいという方が多くいらっしゃいます。また、気負ってやってくるボランティアではなく、一緒に遊んでいる雰囲気です。

○コーディネーターよりまとめ○

今日発表くださった4名の皆さんは、昼食がのどを通らないくらい緊張されていましたが、やはり自分たちの活動のことになると話し出したら止まらないというくらい、笑顔で楽しく語っていただきました。

「活動というのは楽しくなくては続けられない。」ということが皆さんの発表から伝わってきました。では、この楽しさは一体どこから来るのか。これはおそらく、子どもやお年寄りあるいは地域の方々から来ているのではないのでしょうか。確かに、支援やサービスをしているかもしれませんが、一方では地域の皆さんからパワーをもらって、楽しんでいる。これが継続もしくは新しい活動展開につながっていると思います。ぜひ、来場された皆さんも発表された4名の皆さんのところに見学に行ってください。そして、また次の機会もこうしたセミナーを通じて活動の交流などを図っていただけるとなあとと思います。



地域の福祉力アップセミナー

～住民主体の支え合い活動とその手法を学ぶ～

開催要綱

1 趣 旨

少子高齢化が急速に進行する中、誰もが安心して暮らせる地域をつくるために市町村や福祉関係者が取り組むべき課題は増え続けています。一方で、地域の中では、住民同士が互いに協力して福祉課題を解決しようと取り組む機運も高まりを見せています。こうした「ご近所同士の支え合い」が生み出す「地域で福祉を支える力」（地域の福祉力）は、これからの地域福祉を進める上で大きな原動力となるものと期待されています。

本セミナーは、地域における住民支え合い活動の必要性を理解し、県内における実践事例から、支え合い活動のヒントや手法を学ぶことにより、「地域の福祉力」を高めていくことを目的に開催する。

2 主 催

社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会
沖縄県総合福祉センター

3 期 日

平成19年3月2日（金） 13時00分受付（13時30分開会）

4 会 場

沖縄県総合福祉センター 「ゆいほーる」（那覇市首里石嶺町4-373-1）

5 参加対象（定員300名）

社会福祉協議会役職員、民生委員児童委員、福祉施設役職員、市町村職員、自治会関係者、NPO関係者、その他、地域福祉に関心のある方

※定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

6 参加費（無 料）

7 内容およびスケジュール

時 間	内 容
13:00	【受付開始】
13:30	【開会】
13:35 (60分)	【講義】 演題 「住民同士の支え合いと地域の福祉力」 講師 沖縄国際大学総合文化学部教授 神里博武 氏
14:35 (15分)	【休憩】
14:50 (90分)	【パネルディスカッション】 ◎パネラー 「小地域福祉ネットワークにおけるゆいまーる会の取り組み」 南風原町兼城ゆいまーる会 松田直子 氏 「比屋根団地における勉強会、昼食サービスの取り組み」 比屋根団地子ども育成会 北本律子 氏 「一人暮らし高齢者マップと見守り体制づくりの取り組み」 沖縄市城前自治会 内間満 氏 「地域の高齢者が集う憩いの家 かまどっハウスの取り組み」 ボランティアグループもみじ会 安富祖愛子 氏 ◎コーディネーター 沖縄国際大学総合文学部教授 神里博武 氏
16:20	(20分)
16:40	【閉会】

8 申込み方法

別紙「参加申込書」に必要事項を記入の上、下記の宛て先まで、郵送またはFAX、Eメールでお申し込みください。

9 申込み先ならびに問い合わせ先

沖縄県社会福祉協議会 企画広報部（伊良皆、橋口）

〒903-8603 那覇市首里石嶺町4-373-1 沖縄県総合福祉センター内

電話：098-887-2000 FAX：098-882-5714

E-mailアドレス：iramina@okishakyo.or.jp

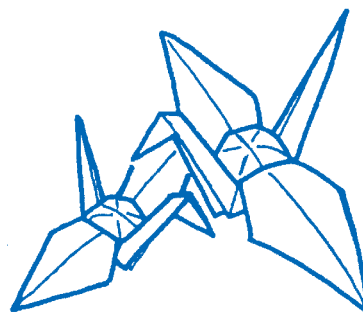
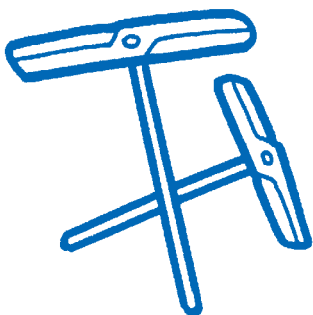
案内用URL：<http://www.okishakyo.or.jp/html/kouhou/>

10 個人情報の取扱いについて

本セミナーの申込者にかかる個人情報は、本会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき、適切に取り扱うことし、セミナーの運営管理以外の目的で使用することはありません。本会プライバシーポリシーはホームページに掲載しています。



この事業の開催経費の一部に、共同募金の配分金を使用させていただいております。



あとがき

「住民支え合い活動レポート集」の読後感はいかがだったでしょうか。

沖縄県社会福祉協議会（以下、沖縄県社協）では、「沖縄県社協 21 プラン」という中長期計画を策定しており、その基本目標の一つとして「福祉文化の形成」を位置づけています。このプランに基づき、平成 18 年度は県内における地域福祉活動を調査・研究し、その活動内容と手法を分析し、県民へ情報を提供することになりました。その一つが、この「住民活動レポート集」です。

本書みて分かるとおり、県内には非常に多岐にわたる地域福祉活動が日常的に展開されています。こうした多くの福祉活動実践から学び「福祉文化の形成」につなげていくことがこのレポート集の大きなならいです。収録している 17 の実践事例から、住民支え合い活動の手法・ヒントを見出していきたいと思えます。

本書の発行と合わせて、3 月には「地域の福祉力アップセミナー」を開催しました。セミナーでは沖縄国際大学の神里博武先生の講義と 4 名の発表者とのパネル討議を通して、住民主体の支え合い活動への理解をより一層深めることができました。

沖縄県社協では、今年度の取り組みを踏まえ、次年度以降も「福祉文化の形成」に向けた調査研究・セミナーの開催を行っていく予定です。

末文になりますが、レポート集の取材にご協力いただきました各活動グループの皆様に心より感謝申し上げます。

イラスト引用

『今すぐ使える実用カット1 ボランティアと福祉カット集』（現代デザイン研究所編、2001年）

『ボランティアまんがカット集』（株式会社シイーム発行、1997年）

「住民支え合い活動レポート集～地域での暮らしを豊かにする福祉実践事例」

発行 平成19年3月

社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会

〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1

（沖縄県総合福祉センター内）

TEL098-887-2000 FAX098-887-2024

<http://www.okishakyo.or.jp/>

本書の作成経費の一部に共同募金配分金を使用させていただいております。